

研究課題

勤労観・職業観を育む キャリア教育の推進と 校長の在り方



I 趣 旨

現在の社会背景として、就職・進学を問わず、進路を巡る環境は大きく変化しており、様々な課題が指摘されている。特に、学校から社会・職業への移行が円滑に行われず、変化が厳しく未来が見通しにくい社会の中で、若者の間に将来の職業生活等への漠然とした不安感が高まり、夢や希望を描きにくくなっている状況が指摘されている。

このような状況の中、子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識をもって日々の学校生活に取り組む姿勢、激しい社会変化に対応し、主体的に自己の未来を選択・決定できる能力を育むことが求められている。さらに、自分の過去・現在・将来を見据え、社会との関連の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことは、自己の確立において青年期の発達段階とされてきたが、生涯にわたっての課題をとらえるべきである。また、しっかりとした勤労観、職業観を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにすることが求められ、より一層のキャリア教育の推進が叫ばれるようになってきている。

本分科会では、自立した社会形成者育成の観点から、学校・社会を関連付けた教育、社会人としての基礎的な資質・能力・発達に応じた指導の継続、家庭・地域と連携した教育など、キャリア教育の推進に向けて、校長が果たすべき役割と指導性について明らかにするものである。

II 研究発表と研究協議

1 研究発表

「一人一人の社会的、職業的自立に向けた
 基盤形成を図るキャリア教育の推進と
 校長の在り方」
 旭川地区 旭川市立末広北小学校 林 邦子

2 研究の概要

(1) 研究の視点と研究内容

＜リーダーシップの視点（1）＞

自尊感情を高め、自己や他者への積極的関心を形成・発展させる教育課程の編成

研究内容 教育課程の編成、校内体制の整備等における
 校長の果たす役割と指導性

- ① 学校経営におけるキャリア教育の明確な位置付け
- ② キャリア教育の浸透化を図る教育課程の編成
- ③ キャリア教育を推進する校内体制づくり

＜リーダーシップの視点（2）＞

身の回りの仕事や環境に関心をもち、目標に向かって努力する態度の育成

研究内容 社会生活の中での責任や勤労などの概念を理解・定着させるために校長の果たす役割と指導性

- ① 社会生活の中での責任や勤労について実感的に理解・定着させる校長の役割
- ② 社会生活の中での責任や勤労について実感的に理解・定着させる教育活動の展開

(2) 旭川市校長会としての取組

＜提言1＞

キャリア教育の視点の明確化と浸透化を図る教育課程の編成と校内体制づくり

学校においては、子どもたち一人一人が、やがては職に就いて社会で自立するとともに、その形成者としての役割を見出し、自己実現を図っていくこと、すなわち、社会的・職業的に自立していくこと念頭に、教育活動全体を通じて「基礎的・汎用的能力」を育み、望ましい職業観・勤労観を養う必要がある。

そのために校長は、学校経営においてキャリア教育の視点を明確に示すとともに、全教育活動を通して意図的、計画的、発展的に育む教育課程の編成及びその実施を支える校内体制づくりにリーダーシップを発揮しなければならない。

以上のことを踏まえて、旭川市小学校長会では、各校において学校経営方針にキャリア教育をどのように位置付け教育課程に浸透させているか、その手だてについて

状況を分析して成果と課題を明らかにし、校長の果たすべき役割と指導性についての検証した。

＜提言2＞

社会生活の中での責任や勤労の概念を実感的に理解・定着させる教育活動の充実

自分の過去・現在・未来を見据え、社会との関連の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことは、生涯にわたる課題であり、それはまた、年齢とともに自然に獲得できるものでもない。子どもたちのキャリア発達には、外部からの体系的・組織的な働きかけが不可欠である。

そのために学校は、子どもたち一人一人が発達に応じて「自己理解」を深め、「社会とのつながり」を実感し、「社会の中を生きる」意欲と能力を高めていくことができる教育活動展開することが重要であり、校長には、その充実に向けたリーダーシップの発揮が求められている。

以上のことを踏まえて、旭川市小学校長会では、各校におけるキャリア教育が具体的にどのように展開され、その中で校長がどのような役割を果たしているかその状況を分析して成果と課題を明らかにするとともに、今後の改善点について検証した。

(3) まとめ

①成果

- ・学校経営へのキャリア教育の位置付けや、教育課程への浸透化の手だてについて、各校の状況を明らかにすることにより、自校のキャリア教育の具体的推進への参考とすることができた。
- ・現在行っている教育活動の意義やねらいをキャリア教育の視点で再構築することにより、子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向けた「基礎的・汎用的能力」を育成するというとらえ方を共有できた。
- ・校長がより明確な方針と手だてを示すことが職員の意識変革を生み、キャリア教育の視点から教育活動の展開につながることを確認できた。
- ・「人と関わる」体験、「社会と関わる」体験を通して自己理解を深め、人や社会と関わる喜びの実感を重ねていくことの重要性及びその機会の充実に向けた家庭や地域、関係機関との連携に果たす校長の役割の大きさを再確認できた。
- ・キャリア教育についての理解はまだ浅く、教職員、児童、家庭・地域に対するあらゆる機会をとらえた校長の直接的な働きかけが有効であることとその具体的手だてについて明らかにできた。

②課題

- ・「基礎的・汎用的能力」の育成について、概念的なとらえではなく、具体的に「どのような力を」「どこで」「どのように」育成していくのか、明確な視点をもって実践、検証（評価）していくシステムの

構築が必要である。

- ・義務教育を終えたら社会に出られる、職業に就くことができる、そのために最低限必要な力を9年間を通して確実に育むという前提のもと、校種間で連携して体系的に取り組むキャリア教育の推進が必要である。
- ・キャリア教育という特設の時間ではないだけに、その意義やねらいを教育課程全体に浸透させるためにはキャリアカウンセリングを含め、職員の資質を高める研修を重ねていくことが一層大切である。

3 グループ協議（6グループ）

(1) 討議の柱1

「キャリア教育を具現化する教育課程への位置付け」

- 教育課程の中にキャリア教育の視点を取り入れ、見直すことが必要である。
- キャリア教育の「価値」をしっかりと位置付け、教頭や教務のサポートによる校内研修を充実させる。
- キャリア教育を全校体制で進めるために、まずは教職員の意識改革が重要である。

(2) 討議の柱2

「キャリア教育を推進する教職員の意識改革」

- 研修の視点を変え、「難しいことをやるのではない」という研修の設定する。
- 校長として、経営方針に「キャリア教育」を設定し、教務主任などの活用を積極的に行う。
- 校長が自ら、日常的に実践されている教育活動に光を当てる。
- 校長が教職員に、キャリア教育を理解させ、意識をもたせる。また、焦点化する場をしっかりと設定することが重要である。

(3) 討議の柱3

「キャリア教育の目指す子どもの姿」

- 子どもたちや保護者・地域の願いを明らかにし、将来に向けての学力や意欲（自己肯定感）そして「生きる力」を育成し、「働き続ける」などの勤労意欲を高めることが大切である。
- キャリア教育の見本は、我々教職員でなければならない。
- 子どもの成長の姿（変容した姿）を、1年間あるいは6年間をイメージし、教職員の意欲・意識を変える。
- キャリアカウンセリングを重視した個別の支援（対話）で、「目的意識」や「いま、何をすればよいか」などを考えさせることが必要である。
- 1年生から6年生まで、それぞれの子どもの姿をイメージする。低学年：環境になれる 中学年：役割 高学年：責任
- 「夢」や「あこがれ」「希望」などをもたせる。

- 「マイノート」を使用し、身近な目標や将来の目標をもたせる。（学習の必要性→喚起→学習意欲）

Ⅲ ま と め

本分科会は、昨年度までの第6分科会「社会形成能力」から「社会を形成する力」へ、第13分科会「社会性」から「キャリア教育」へと今年度から整理された。

(1) 視点1：自尊感情を高め、自己や他者への積極的関心を形成・発展させる教育課程の編成

- ① 学校経営におけるキャリア教育の明確な位置付け
 - 諸調査の結果や学校評価など、具体的な根拠から自校の課題を明らかにしてキャリア教育推進の視点を示すことにより、教職員の理解と実践への意識化が図られた。
 - 児童の実態から、児童・教師の「行動をそろえ」、習慣化させ、定着させることにより、児童・学校の変容につなげる活動を実施している。
- ② キャリア教育の浸透化を図る教育課程の編成
 - 教務部が主導し、キャリア教育の全体計画を作成した。
特に、今年度は「基礎的・汎用的能力」に関わって、具体的に目指す子どもの姿を、低・中・高学年でそれぞれ2項目ずつ焦点化することで、全教職員での共有化と着実な実践につなげている。
 - キャリア教育の浸透化をめざし、学年ごとに「キャリア教育ファイル」を整備している。
- ③ キャリア教育推進のための校内体制づくり
 - 教務部が、キャリア教育の視点から自校の教育活動について意義とねらいをとらえ直して職員会議で提示、共通理解することにより、全教職員がキャリア教育の視点を明確にもって教育活動を進め、活動内容の充実が図られた。

(2) 視点2：身の回りの仕事や環境に関心をもち、目標に向かって努力する態度の育成

- ① 社会生活の中での責任や勤労について実感的に理解・定着させる校長の役割
 - 地域行事において、子どもたちが、地域の人と一緒に楽しむプログラムを主体的に企画運営することにより、人と関わる力や責任、勤労について実感的に学ぶ機会とした。
 - 「校長室のつぶやき」により、やがては社会人となるべき子どもたちの「自立」と「人と関わる力」の育成という視点から、様々な情報提供に努めている。
- ② 社会生活の中で責任や勤労について実感的に理解・定着させる教育活動の展開について

- 自校の実態に即した改善を行い、自校版マイノートを作成し活用している。

(3) 討議の柱から（協議の発表内容から）

日常の教育活動をキャリア教育の視点から見直し、教育課程に位置付け、教務主任を中心に教職員を動かし、子どもの将来の姿を明らかにすることが大切である。

(4) 今後の課題とまとめ

- ① 学力向上のためには、学ぶことの意義を理解することが大切であり、学習意欲の向上や学習習慣の確立はキャリア教育が担う最も重要な側面であること。
- ② 全体計画、年間指導計画の作成を通して、各学校におけるキャリア教育に関する方針の明確化を図ること。
- ③ 教育課程に位置付け、全教育活動を通じて取り組むとともに、各取組を適切に結びつけること。
- ④ 学年間・学校種間の緊密な協力や円滑な接続としての「縦」の連携と、家庭や地域・社会、企業、NPO等の協力や共同としての「横」の連携を活性化すること。

「第13分科会に参加して」

旭川市立大有小学校 川 島 政 吉

本分科会は、「社会性」から「キャリア教育」へと今年度より整理されたもので、「自尊感情を高め、自己や他者への積極的関心を形成・発展させる教育課程の編成」と「身の回りの仕事や環境に関心をもち、目標に向かって努力する態度の育成」の二つの視点で、キャリア教育の推進と校長の在り方について討議を深めた。

最初に、大堂 譲校長から、分科会趣旨説明が行われ、続いて林 邦子校長から、旭川市小校長会として実施したキャリア教育についてのアンケート調査の結果や分析した内容等が発表された。そこで、キャリア教育を推進していく上での校長の指導性発揮の視点や校長の果たすべき役割と指導の在り方等について、参加者一同で確認した。そして、六つのグループに分かれ教育課程への位置付けや目指す子どもの姿等について協議し、各グループごとの全体発表で交流がなされた。

今回、小学校でのキャリア教育の実践には、道内の各小学校で多少差があると感じた。さらに、キャリア教育は子どもたちの学習意欲の向上や学習習慣の確立に、最も重要な役割を担っていることと、キャリア教育を推進するには、校長として明確な方針を示し、全体計画、年間指導計画の作成や教職員の意識改革にリーダーシップを発揮することが重要であると再認識した。